

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろーぱーたからづか			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日 ～ 2025年 12月 26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年 12月 8日 ～ 2025年 12月 26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全ての職員が得意分野を活かし、様々な活動プログラムを考え、子どもたちに提供できているところ。	プログラム作成にあたっては、個別でするものと集団でするもの、静かに取り組むものと体を動かし、活動的に取り組むものをバランスよく取り入れるようにしています。その日の利用メンバーによって難易度を変えるなどの工夫をすることで、ひとりでも多く自主的に参加できるよう心がけています。	職員の更なる質の向上。利用児童の特性だけでなく、今興味を持っているものや子どもたちの間で流行っているものなどを普段のやり取りの中でリサーチし、協力しあってプログラムに取り入れていければと思います。
2	全員が揃うまでの個別療育の時間。	宿題や課題プリントで学習面の底上げをしたり、じっくり会話をすることで語彙力の向上を図っています。集団では取り組みにくい個別のLSTやSSTもこの時間を利用してしています。	課題を与えるばかりでなく、本人がしたい事・興味のあることを引き出し、自己決定力→実行力を育む支援につなげていければ、と思います。
3	ご家族に対する丁寧な対応。	お送りする際、できるだけその日のお子さまの様子をお伝えするようにしています。連絡帳は療育時間内に記入することになり、詳しく書けないときもありますが、療育に支障がない範囲でできる限り記入しています。	今後もお子さまの状況をスムーズに共有できるよう、日頃から信頼関係の構築に努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が狭い。	限られた空間を少しでも多く療育スペースを確保できるよう努めています。	利用児童だけでなく、職員も快適に過ごせる空間作りをレイアウト変更も含め考えていきます。
2	非常勤スタッフが日々の支援の提供以外のところの知識を得る機会が少ないところ。	昨年度、スタッフミーティングの時間を作り、情報を共有する機会が増えたのですが、どうしても日々の支援の話に時間を割くことが多いので、関係機関との連携、事業所運営のことなどの周知はまだ完全ではありません。	管理者および児発管が意識して伝え、全職員が少しずつ理解を深められるように努めます。
3	事業所外とのつながりの希薄さ。	利用児童への日々の支援の充実と安全の確保を第一に考えて日々取り組んでいます。その結果、同じ系列の事業所との共同プログラムはありますが、その他の事業所との関わりはあまりありません。	機会があれば利用児童の利益を第一に考えて検討したいと思っています。